

船井情報科学振興財団 留学報告書 2016年8月

長野光希

留学3年目以降は主にリサーチアシスタント(RA)として大学から授業料などの支援を受けていました。昨年からは海外の奨学金への応募を考え始め、今年はグーグルの奨学生として支援してもらえることになったので、その選考プロセスなどを参考までに書いておこうと思います。

【概要】

2009年に始まった奨学金で、最初はアメリカ・カナダの PhD 学生の支援で始まり、今は、北米のほか、ヨーロッパ・中東、オーストラリア、中国・東アジア、インドにまで拡大し、北米からは例年15人程度の博士学生が選考されるようです。2009年から2016年現在までで、250名程度の PhD 学生を支援しているそうです。内容は、地域によって変わりますが、北米だと以下のようになっています。

UNITED STATES AND CANADA

- 2 year Fellowship with opportunity to extend to 3rd year
- Full tuition and fees (books, health insurance, etc) plus a stipend to be used for living expenses, travel and personal equipment.
- Google Research Mentor

<http://research.google.com/research-outreach.html#/research-outreach/graduate-fellowship>

s

ほかの奨学金と支援内容や期間は似ていますが、グーグルリサーチのメンターがつき、アドバイスが受けられるというところが少し違うようです。

【選考プロセス】

北米の選考では、グーグルから選定された大学から、各大学2名まで推薦できるようになっています。個人推薦は受け付けていないそうなので、大学からの推薦が必要になります。USCでは大学内部で選考があり、僕ともう1人は違う学部の学生が推薦されました。選考書類は年によっても変わるかもしれないのでウェブサイトで調べたほうがいいと思いますが、大学内部選考の前に以下の書類を用意しました。

- name of fellowship for which student is being considered
- student CV

- transcript of current and previous academic records
- research/dissertation proposal (recommended length 4-5 pages, no longer than 8)
- 2-3 letters of recommendation from those familiar with the nominee's work (at least one coming from the thesis advisor)

CV、成績表、推薦状は、大学院の出願と似ているので準備はそれほど大変ではないと思います。加えて、博士論文のプロポーザルを4、5ページにまとめた書類が必要だったので、時間をかけて入念に準備しました。

大学からの推薦の後は、面接などはなく、提出書類に基づいて、グーグルの方で選考を行うようで、数ヶ月後に結果の通知が来ました。

【交流会】

船井財団と似ていて、グーグルの奨学金にも交流会がありました。今までは各地域ごとにやっていたそうですが、今年2016年は、世界中から奨学生を呼んで行う第一回のグローバルサミットが8月22日から24日にかけて、サンフランシスコで行われました。以下で今年の交流会のスケジュールを見ることができます。

<https://sites.google.com/site/googuniversityrelationsevents/home/workshops/phd-fellowship-summit-2016#schedule>

3日間にわたる交流会で、1日目は夕方にホテルにチェックインして、ホテルのプールサイドでソーシャルだけが行われました。



2日目、3日目のプログラムはグーグルのマウンテンビューキャンパスで行われました。2日目は主にレクチャー形式のワークショップが行われました。グーグルリサーチのグループリーダーなどがそれぞれのグループのプロジェクトについて話してくれました。その他、奨学生の中にはすでにグーグルでインターンシップをしている学生も多く、インターンシップでやっている内容について話してくれました。全体的に 機械学習の内容が大半だったのが印象的でした。夕方は有志で奨学生20人ほどがポスターを持ち寄り、ポスターセッションが行われました。交流会にはグーグルリサーチのメンバーも混じり、食事や休みの時間、ポスターの時間などはディスカッションが絶え間なく行われました。3日目はお昼で解散となっており、午前中にグループワークとパネルセッションが行われました。

グループワークは、個人の興味に合わせて、機械学習、ニューロサイエンス、セキュリティ・プライバシーなどの5つのグループに分かれて、小グループのセミナーが行われました。セミナーは、よりディスカッションに適した小さな部屋で行われ、まずその分野に特化したグーグルリサーチのグループリーダー2人が研究プロジェクトについてプレゼンテーションをしてくれました。その後は、研究グループのエンジニアが混じって、ディスカッションやQ&Aの時間になりました。2日目のプレゼンテーションでは、概要的な話が多かったのに対し、3日目は小グループなので、よりテクニカルで詳細な内容を聞くことができました。

小グループでのセミナーの後は、再び全員と合流し、今までのグーグルリサーチの発表者が数人前を出て、パネルセッションが行われました。パネリストの中には、最初に大学教授をした後グーグルにきた人や、グーグルで長期間研究者として働いている人などがいて、それぞれの立場からアカデミアとインダストリでの研究スタイルやモチベーションなどについて話を聞くことができました。モチベーションには **Intrinsic** と **Extrinsic** なものがあるが、最終的にはアカデミアだろうがインダストリだろうが、**Extrinsic** は瑣末な違いでしかないので、**"Core Intrinsic Motivator"**を第一に考えて行き先を選ぶのがいいという話が印象に残りました。

今後も日本や海外の同世代に刺激を受けて頑張っていきたいと思います。